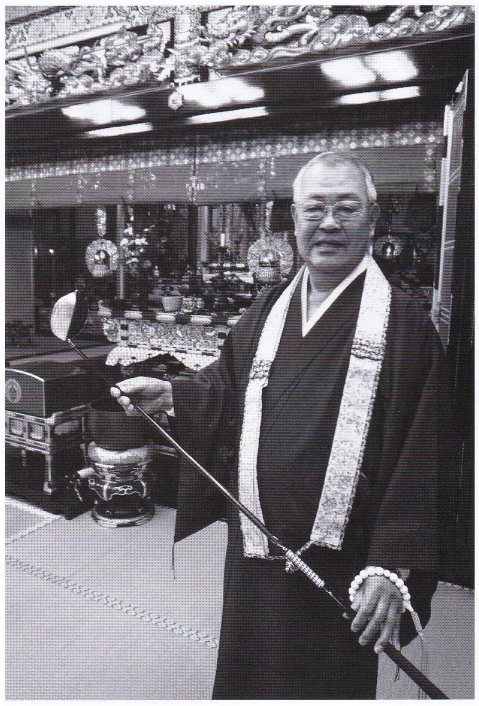
# お寺善哉

～ある法友との出あい～



奈良県香芝市
無量寺住職

## 中川法城さん（73）

奈良県と大阪府が境を接するあたりに聳える、古代より神聖な山としてあがめられる二上山。その東麓に扇状に広がる奈良県香芝市に無量寺はある。創建は江戸時代前期で「お犬様」で有名な五代将軍・徳川綱吉のころ。そこからこの地で、三百三年間途切れることなくみ教えは伝え続けられて、いまに受け継ぐのが法城住職である。

英語英米文学科の教授をしていて名誉教授の肩書きも持つ住職は、龍谷大学に四十年にわたり勤めた経歴の持ち主。正式に住職となったのは四十歳のときだが、病弱で長らく入退院を繰り返す状態であった前住職の実父が、継職法要の二カ月後にご往生された。「たとえ、入院してお寺にいなくても、父がいるということが心強かった」と、亡くなって、その存在の大きさを思い知らされたという。

本堂の建て替えの話が持ち上がったのは、住職となって数年後の、まだ不安をいっぱい抱えていたころ。ご本人が一番の大事業であったと語る、その建て替え当時の話や、三十年以上続いている「無量寺ゴルフ会」の話をお聞きした。

# 誰もが気楽に集えるお寺に

インタビュー：林寺堅

## 垣根を取り払う

住職になって五年目だったと思います。酒の席で、総代さんらに、「本堂を建て替えたい」というようなことを、ポロっと口にしたんです。老朽化が激しかったですから。具体的な計画などなく、私としては、将来の夢が口をついて出たんです。それが、総代さんをはじめ、ご門徒さんたちの思いに、火を着けちゃって、「やろうやないか」って盛り上がったんです。皆、私の父親のような年齢の方ばかりですよ。これには驚きましたし、うれしくもありました。

そうと決まってからの勢いはすごいものがありました。中心となってくださったご門徒さんは、毎日のようにお寺に足を運んでくださり、「ああしよう、こうしよう」と話が出てからたちまち、約五年で現在のこの本堂が建ちました。いま思っても、あのときの熱気みたいなものはすごかったです。「お寺のためなら」という有り難いお心が、ひしひしと伝わってきました。

こだわったのは、誰にも開かれているという、浄土真宗の教えの素晴らしさを、形で表現したいと思い、内陣と余間の床の高さを同じにしたり、内陣中央の正面柱を減らして、お参りの際の見通しをよくしたところです。強度の面から、木造では難しかったのですが、工夫を凝らして実現しました。

同じく、開かれたお寺にとの思いから、私が続けてきたのが、「無量寺ゴルフ会」です。龍大ゴルフ部の部長をしていることが知られ、ゴルフ好きのご門徒さんと始めました。年に二回のコンペを、三十年以上途切れることなく続けています。ゴルフのときは、私も、法衣も着てませんし、僧侶であることも忘れてますが、それがいいんです。ゴルフを介すことで垣根が取れて、相手との距離がぐっと縮まります。キャディさんなんかも、「えっ、お寺の会！　あなたが住職さん！」って驚かれてます（笑）。

これから益々、お寺離れは進むでしょうから、誰もが気楽に集えるお寺にしなければと思っています。専門の英語を生かして、子どもたちに「寺子屋英語教室」を開くのも良いのではと思っています。